

特別講演 2

「子どもの感染症と予防接種、そのリスク・マネジメント」

東京慈恵会医科大学 分子疫学研究室 准教授・小児科医長
浦島 充佳 先生

2008年、日本の5歳未満の乳幼児は、下痢（46人）、髄膜炎（15人）、肺炎（225人）、他の感染症（407人）など予防接種で防ぎ得る病気で約700人が死亡しています。一方で、ワクチンの副作用で死亡したケースがニュースで報じられると、直ちに接種率が減ってしまう現状があります。このような矛盾の中で、地域医療を担っている医師の役割は極めて大きいといっても過言ではありません。当日は以下の内容で講演をさせていただければと考えています。

第1部：子どもの感染症と予防接種の実際

- 1.子どもの感染症（年齢、季節性、その他）
- 2.予防接種制度の概要
- 3.日本における予防接種の現状と問題点（ワクチンギャップを含めて）

第2部：リスク・マネジメントを中心として

- 4.予防接種のリスク・マネジメント
- 5.予防接種の上手な受け方と接種法
- 6.安全なワクチン確保とその接種法